

令和2年度 第1回山梨県職業能力開発審議会 議事録

日時：令和2年12月25日(金) 午後1時30～3時30分

場所：ホテル談露館 1F「アンバー」

- 1 開会
- 2 産業労働部長あいさつ
- 3 会長・副会長の選出
- 4 会長あいさつ
- 5 第11次山梨県職業能力開発計画について諮問
- 6 議事
(1) 第11次山梨県職業能力開発計画の策定について

～事務局説明～

【議長】

ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見がございましたらよろしくお願ひします。

事業主と労働者代表の方からのご意見を伺いますので、各所から1人くらいご発言頂けるとありがたいですけど、何かご意見がありましたらよろしくお願ひいたします。

【委員】

国から直接、皆様方にこのような計画があるんだよというのではなく、山梨県の事情に沿った、新しいものを、次の県の計画に盛り込んでいくとの考えはございませんか。

【議長】

山梨の事情を考えて、国に意見をとは考えていませんか。県の考えをお願いします。

【事務局】

本県は他県と社会情勢等が違っておりますので、県の状況等を踏まえて、計画を作っていくと考えております。

【議長】

よろしいですか。他にございませんか

【委員】

資料1の1の中ですけど、先ほど審議会で職業能力開発の基本的政策のところ、優先的に産業技術短期大学校と峡南技専に特化してお話しがございましたが、その他についてもいろいろ有るわけですけど、その他の部分については、従来と同様の考え方でよろしいでしょうか。

【事務局】

他の部分につきましては、今後、全体的な職業能力開発計画策定の検討を行う中で、ご意見をいただきたいと考えております。

【議長】

それは、これ以降で、検討すると考えて良いのですね。

【事務局】

はい、そうです。

【議長】

その他ございませんでしょうか。

【委員】

正直、私もわかってないところがありまして、先ほどの資料1の1は、令和3年4月に策定される国の職業能力開発基本計画を踏まえて4月に策定されると書いてありました。資料1の2の(1)の法第7条第1項には、都道府県は職業能力開発基本計画に基づきとありますので、この流れでいきますと、4月以降に国の方針が示された後、県としてどのような取り組みをするかということ具体的に考えて進めていくという流れだと思ったのですが、資料1の1の計画で行きますと、第2回審議会は来年の2月で、3年度第1回も5月で、そこからが国の作成された計画を基に、具体的に検討するという流れとしてよろしいのでしょうか。確認です。

【事務局】

国の細かい基本計画、全体の基本計画が決まりますのが、令和3年4月でございますが、それまでも国の方で、計画の方向性やガイド的な項目を少しずつ公表しますので、そのような情報を基に、県の方向性を次回2月の審議会でご説明させていただきます、県の全体的な詳細な素案につきまして、令和3年度第1回の審議会ですべて、議論をいただきたいと考えています。

【議長】

よろしいでしょうか。

(2) 産業技術短期大学校及び峡南高等技術専門校における人材育成について

～事務局説明～

【議長】

産短大と峡南技専の課題と現状についてご説明がりましたが、ただ今のご説明について、何かご質問、ご意見等をよろしくお願ひいたします。

【委員】

資料2 (P40) に記載された「産短大生及び企業が、ともに課題発見・解決力を重視している。」とあり

ますが、具体的にどのような方法で強化していくのかわからなかったもので、ご説明をお願いします。

【事務局】

各企業様や学生にアンケートをとりまして、その結果として、このような項目が必要になるとの回答をいただきました。具体的にどういった授業をするかということは、この項目を基に、今後、検討していきたいと考えております。

【委員】

この部分については、今までも、課題として上がっていたのでしょうか。今回から出てきたものなのでしょうか。

【事務局】

課題解決力の養成は、文部科学省も含めた全ての職業教育の大きな流れの中で、アクティブラーニングなども含めて、自ら課題を発見して、それをどう解決していくかといった、これから人材育成には必要であるとの考え方となっています。本校としまして、卒業研究で、大きな機械を作る、そうすると何人かの学生が協力して進めていくわけでありますが、その中で見つけた課題、というものを自ら見つけて、それを調整、解決していくということで、本人の技術力、コミュニケーション力、すべてのものに影響をあたえていきますので、学校としては、その中で養成をしております。

【委員】

ありがとうございました。

【議長】

よろしいですか。課題解決力の養成は、大学でも同じ状況です。授業の中で何かテーマを与え、解決する力を養っております。他にご質問、ご意見等をよろしく願います。

【委員】

資料2（P15）に、高校生たちへ産短大と峡南技専をどのくらい知っているかとアンケートをなさっていますが、あまりに知られていないというのが私の印象です。今年の9月、10月頃にアンケートを行ったとのことだが、以前にも、それぞれの学校がどのくらい知られているかといったアンケートを実施したことはありますか。

【事務局】

平成29年3月にも実施をいたしまして、この時には、県内の全ての高校を対象に37校へアンケートを実施いたしまして、この時は「知らない」との回答が、全体平均で73.3%ございました。今回は、比較的、産短大へ進学をする高校を対象に22校にアンケートを実施いたしまして、結果としては、68.2%でございました。

【委員】

そうすると、いろいろなご努力をされていますが、今年はコロナでの影響かはわかりませんが、努力をされている中で、なかなか認知度が上がってこないということは、そこに、今後はどうやったら認知度を高められるかなということに課題発見力があるのではないのでしょうか。実際にどうしたらいいのか、認知度を高められるか、といった考えは私にもないが、その辺に、新しいことをやっていかないと知られて

いかないのかな、と感じた次第です。私、前回の会議にも出させていただいて、観光ビジネス科が塩山にあって、都留にあれば良いのかなといった意見もでたと思うが、仮に、県外の方達を対象にした時に、富士山の麓で観光ビジネスを学びませんかといったキャッチがあれば良いのかなと、そんなことを思った次第です。

【議長】

おっしゃる通りだと思います。資料2（P9～10）に、定員充足に向け、様々な取り組みを実施しているが、認知度が向上しない現状に関して検証を行い、検討する必要があるのではないのでしょうか。認知度の向上に関して、現状の検証を行い、継続的な検討が必要ではないのでしょうか。また、定員充足に向けた取り組みでは、中学生を対象とした取り組みが少ないのに何か理由があるのでしょうか。

【事務局】

小学校、それから、中学校に対しては、主に、産業技術短期大学校が設置されております、峡東地区や都留市を対象に、本校の方からこういった授業ができます、若しくは、こういった教室を開きますといった通知を、年度毎に配らせていただいております。その中で、特に、小学校がプログラムを授業に取り入れております。本校に、情報技術科がございまして、小学生向けにプログラムを教えてくださいといった問い合わせが好調なのですが、やはり中学校の方からこういった授業を、といった問い合わせはあまりない状況がございまして。やはり高校の方は、専門の部分で理科系の部分での問い合わせいただくこともありますが、確かに中学校からの問い合わせは少ないように感じております。

【議長】

ニーズがないということで、様々な取り組みをやっておられるということが、分かりました。他に何かありますか。

【委員】

資料2の39ページの4主な課題・問題点で、何故、認知度が低いのかというところですが、その部分では、学科自身が、今のニーズにあった学科になっているのか、ということがあると思います。それから認知度が低いという中では、世の中ロボコン大会などに高専などがでていますが、そういったものをマスコミに訴えながら、あるいは認知してもらいながら、広げていくのが1つの手段かなと思っているが、その点はいかがですか。

【事務局】

学科のニーズでございまして、今般、企業や高校生に対しニーズ調査を行い、回答をいただいておりますので、詳しく分析をいたしまして、さらに、企業からの求人自体は高い状況にありますので、そういった点を踏まえまして、検討をしていきたいと考えております。

【事務局】

ロボコン関連でご説明させていただきます。高専が出演しておりますロボコンにつきましては、本校は、エントリーできませんが、山梨県のICTメッセと平行して行われておりますロボットコンテストには、例年、参加させていただいております。何度か優勝もさせていただいております。ただ、マスコミの露出という部分では、取材してくれる年もありますが、なかなか大々的に報道されることは少ない状況にございます。

【議長】

資料2 (P9) の34「テレビ出演」とあるが、これは継続的なものではなくて、単発的な何かイベントがあつてのものなのではないでしょうか。

【事務局】

34番に関しては、テレビ局の方から、本校を取材していただけるお声かけがございまして、ご対応いたしました。こちらから定期的にといったことは難しい状況が続いています。

【議長】

お金の面で難しい面もあると思います。具体的にどうやって認知度を上げていくのかといった点が大きな課題かなと思います。

【委員】

資料2 (P9) の定員充足に向けた取り組みですが、それぞれの取り組みに対して、一番反応がよかった取組のような、ふりかえりなどの作業の実施しているのでしょうか。

【事務局】

学校の中で、各学科毎に、重点的な取り組みを毎年度、整備をしております、それを年間の計画の中でやる、その全体を通して、各学科毎の取り組みをふりかえりという形で年度末に検証、翌年について、それを継続していくのか、スクラップするのか、改善するのか、といった検討は随時行っております。また、本校が今まで取り組んだ中で、最も効果的な取り組みは、私の私見なのですが、高校の3年生の先生方へ、直接伺い、ざっくばらんな形で、説明と情報交換を、全部の県立高校へ3年間継続いたしました。高校の先生方はだいたい3年間で、1年、2年、3年とローテーションしますので、3年間終わった段階で、高校の先生方と、本校の距離がぐっと縮まった様に感じました。ただ、今年はコロナ渦でそれができなかった。学生に、本校をどうやって知りましたかと言う風に聞きますと、一番多い答えは、高校の先生と答えます。ですから本校は、高校の先生を一番のキーポイントとして捉えておりますので、今年はそれができなかったことを非常に痛手になっていると感じております。

【委員】

先ほどお話を頂きました、高校の先生に伝えるには、先生方にまず知っていただく事がもっとも早い方法かと思っております。特に、産短大へ行く生徒、産短大が集めたい生徒は、普通高校の生徒を中心に集めにいくのが良いのかなという風に思っております。それは、今年4月から甲府工業高校にも専攻科ができております。その専攻科は工業系といいですか、工業を習ってきた生徒しか入れない。その甲府工業高校を出てきた生徒は、甲府工業高校の専攻科へ行ってしまふ可能性が高くなってしまいます。何人かは産短大へ希望して行く生徒もいますけど、その点を、考えますと、普通高校にある程度、ターゲットを絞っていられるのが良いのかなと私も思っております。先ほどお話いただきました、高校の先生方へ話しをする取り組みは、毎年続けていられるのが良いと思います。ただ、なかなか言いにくい所もあつたりしますが、普通高校を考えて見たときに、入ってくる生徒は、基本的には、大学、短大への進学を目指して進学先を考えています。それを頭にいれて探している状況がありますので、3年の担任も、それに併せた指導をしていきます。ですが、産短大の魅力は、学費が安い、山梨県にある、就職が良いとは分かっているのですが、普通科高校にいつている生徒の目的が、ちょっとそこにはない。大学に行きたいという形。それが、ものづくりに関係する職業に就けると考えていると思つてはいますが、その点から言つて、産短大のニーズ、知名度を上げていくといったことは、大変難しいのかなと思います。直接、高校生に産

短大のPRができれば良いのかなと思いますが、本当は、毎年、毎年、高校の2、3年生対象に学校を順番に変えながら、産短大についてのアンケートをして、産短大っていうのがあるんだよと知ってもらおうというやり方も、あるのかなとは思いますが。それは、高校生の本音の部分を知ることができると思います。そういう形が良いのかどうか分かりませんが、産短大で取り組まれている授業の内容は、レベルの高いもので、一人一人に併せた授業をしていただけることも十分知っています。そこを高校生にも伝えていく、何を将来、仕事にして行きたいのかということが、伝えていける場所としての産短大もありますので、基本、進学を中心に考えている、普通科高校に話しをしていくことは、難しい点もあるかとは思いますが、重要なかなと思います。

【議長】

うちの大学のことで恐縮ですが、11月に推薦入試がありまして、今年からセンター試験が有りませんので試験の制度を変えたのですが、11月の推薦の志願者が激減しまして、いろいろと分析をしているんですけど、1つはまず、試験の制度が変わったということが高校生に伝わっていない。コロナで高校周りも行けなかったこともありまして、今のお話で、やっぱり高校に出向いて説明するということは、募集要項に書いてある以上のことをきちんと説明しないと伝わらない部分があるので、非常に大切だなと、私も参考にさせていただこうと思いました。

【委員】

今、お話を聞いている中で、普通高校からも生徒を入れるべきだということは分かりますが、中には、普通高校に3年間通ってるなかで、入学当時は、大学進学を目指して、普通科に入学した子もいると思いますが、ただ、家庭の事情だったり、いろいろな生徒の事情で、実は、就職したいんだとか、工場系の会社に行きたいんだという子も、中にはいると思うので、そういうお子さん達も各学校の進路指導の先生だったり、担任の先生が、産短大だったりをご案内することが、もしも迷ったら、こうゆう学校もあるよと、これは、ご案内するしかないと思うので、そういう進路指導だったり、学校に呼びかけをしていただけるようなことが、やがて入学へと結びついていくのかなと思いました。

また、峡南技専についても、第2種電気工事士は、もちろん工業高校でもみんな取るのですが、この学校に入れば、第1種電気工事士を必ず取得できるとか、あとは、施工管理技士1級なり2級を取っていくような制度にしていただければ、もっと就職が有利になると思いますので、その点も、内容を変えてやっていくのが良いのかなと思います。

【事務局】

今、ご指摘のございました、第1種電気工事士なのですが、今年の3月、ちょうどコロナが流行り始めた時期だったのですが、埼玉県、神奈川県先進地、電気工事士の業界団体へ話しを伺い、実は今年からカリキュラムを大幅に見直しまして、本校でも第1種電気工事士の合格者を出そうということで取り組んでおります。10月に学科試験があり、何名かが合格しております。つい先週、実技試験がございました。結果は1月下旬にならないと分かりませんが、感触的には、何人か、本校初の合格者がでそうな状況です。もし今回うまくいけば、来年度以降、本校でも、第1種電気工事士が取れることをアピールしながら強化をしていきたいと考えております。

【議長】

よろしいですか。他に何かありますか。

【委員】

1つ気になったのは、15ページのアンケート結果の中で全体的に「知らない」が多いという傾向ですが、都留興譲館は隣に都留キャンパスがあるのにここを入れてしまうのは、分析的にどうなのかなと単純に思いました。

後はですね、「進学を希望しない理由について」17ページのところですけど今の学生がどうなのか、ということは、正直、分からないところなんですけど、自分の若かりし頃を思うと、卒業の時に、自分の適性を正直そんなにわかっている人がこの中にどれくらいいるのかなと思います。

それから先ほどの、工業高校に行っている方からすると工業高校からそのまま産短大に進学するという位置付けで有ればたぶん産短大も視野に入りますが、普通科からですと元々大学進学を考えると考える方がほぼ100%です。そうではない方もいるため、いろんな事情の方に対しての認知度を上げる取り組みをした方が良いとは思いますが、それがなにかとは、正直わからず、もしかしたら中高以前のものづくりに関心を高めてもらう取り組みがもっとできたらと思います。何かぼやっとした感じで申し訳ありません。

【議長】

はい、ありがとうございました。

【委員】

私は、山梨県機械電子工業会のメンバーでもありますので、そのメンバー企業では、大手企業が手を出せないあるいは手を出さないような、細かくて人手のかかる仕事をするそういった中小企業の力が大企業を支えていて、いろんなものづくりをするので優秀であるが、町工場はなかなか求人が埋まらない。働き方改革が叫ばれている中で、働き方改革の対応として人を増やすか、あるいは省力化を図り人を減らして人の作業を少なくして、作業を軽減して作業時間を減らすしか無く、そこで必要なのはロボットだとかAIだとかIoTを駆使するが、ロボットを入れたけど人の何倍も時間がかかる。文句も言わないで24時間動いてくれるけどそれでも作業量が一人分届くか届かないかという状況であったりするがこれが5Gになればもっと早く作業効率が上がる。しかし、早い分、電波の届きが悪く障害物や障壁があると速度が遅くなる、そういった事への技術改革に対応できる人材が必要であり、今の環境に必要な人材はなんだろうと、タイムリーに考えて欲しい。

そういった企業が欲しい人材を育成する学科や授業を積極的に取り入れてもらいたい。

従来の授業では無くそのために有名な先生を講師として受け入れ教育してもらい、そういうことを積極的に取り入れた授業をして大学としてパワーアップして欲しい。

山梨県として産短大をどんな大学にしたいのかを明確にして欲しい。

観光にしても、そうだと思います。私の知り合いのアジア人の多くに日本語もしゃべれて英語もしゃべれて中国語も韓国語もしゃべれる人がごろごろいるが定職に就いていない。こういった人達を学生として受け入れる制度があれば、注目される。

このような取り組みは、時代を先取りした取り組みであり、山梨県の産短大なら学生にもなれてかつ日本で就職もできると外国人の学生の中で噂になれば、このような取り組みができるなら外国人は情報が早いので観光ビジネス科もアピールできるのではないかと。

【委員】

今のお話しの補足ですが、産短大生は2年間授業がびっしり詰まっており、観光ビジネス科の生徒は人としての基本が出来ている、挨拶とか、相手の話をよく聞き、2年間で多くの資格を取得している素晴らしい学生が多い。今、お話にありました何か時代を先取りした取り組みは山梨県にとりましてとても大切なそして産短大のアピールにもなる。彼らがしっかりと学べるようであれば経済的援助を十分にしてもらいたい。

もう一つよろしいですか。先ほどものづくりについてのお話がありましたのでお話しします。現在、職業能力開発協会では、厚生労働省からの委託事業で、小中学生へのものづくり出張講座に取り組んでいます。参加者は、以前は数十人でしたが現在は、600～700人位の生徒に出張講座を実施していて、このように、小中学生にもものづくりをする事により自分の力で物を完成してもらおうという達成感を身につけてもらいたいです。そして、ものづくりに興味をもってもらいたいです。先生方も感動してくれまして、小学校の教頭先生からお褒めの言葉を頂きました。評判は良かったです。

【議長】

このような取り組みを今後も続けて頂けたら、良いです。ものづくりへの興味を持ってもらいますね。ただ、なかなか見えないし効果が出ないです。

そろそろ、お時間もありますので、何か最後にありましたら。

よろしいですか。

次にその他何かありますか。

(3) その他

なし

7 閉会